

「はいをはい、いいえをいいえとしなさい」ヤコブ5：12 12・1・29

I 「何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです」。1. これは、洗礼（I ペテロ3：21）、結婚、裁判での証言等のすべての誓いの禁止を意味していない。2. この御言葉が指す誓いは、神の御名をみだりに使って誓い、自分のことばを信用させようとする不謹慎な行為を指す。ある人々は、神の御名を直接使う事を避け、天や地や他のものを指して誓っていた。しかし、これらも同じ冒瀆の罪。なぜなら、天も地もすべてのものも神により造られたものであり、神に属している。それらを指して誓うことは、神の御名にかけて誓う事と等しい。

II 「ただ、『はい』を『はい』、『いいえ』を『いいえ』としなさい」。この意味は、特別なもので誓わなくても、普段の言葉そのものが、信頼できる信用できる真実なものであるようにしなさいということ。「はい」と言ったら本当に「はい」であり、「いいえ」と言ったら本当に「いいえ」でありなさい。嘘、偽りを言わず、言葉が真実でありなさい。真実な神が、すべての言葉を聞いておられることを覚えて語りなさい。「あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない」（出20：16）。偽り、うそを言って、ある人の名誉、評判を損ねたりしない。噂に対して、事実が分からず、責任を持って「はい」か「いいえ」を言えないのに、他の人に広めたりしない。敵意を持って偽りを作り出し語ったりしない。ある人の欠陥を言いふらさない。ある人が間違っ悪く言われている時、それは事実とは違えますと言ひ（「いいえ」は「いいえ」と）、その人の人格と真実を守りたい。人を中傷する事に加わり、分裂分派に加担しないように祈りたい。御言葉に思いを潜めよう→「偽りを言う口をあなたから取り除き、曲がったことを言うくちびるをあなたから切り離せ」箴言4：24。「わたしのくちびるは正しいことを述べよう。わたしの口は真実を告げ、わたしのくちびるは悪を忌みきらうからだ」8：6, 7。「むだ口をたたく愚か者は踏みつけられる」10：8。「謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず」（I テモ3：8）。二枚舌とは、「ある人にはこう言い、他の人には別の事を言う」事。それは健全な人間関係、信頼関係を壊してしまう。私たちも、ことばに気を付けたい。「あなたがたは偽り（欺き、駆け引き、狡猾）を捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです」エペソ4：25。悪魔は、「偽り者であり、また偽りの父」（ヨハネ8：44）。悪魔は、私たちに偽りを語らせ、主にある交わり（一つとされたからだ）を壊そうとする。気を付けたい。悪魔と反対で、私たちの神は、「真理の父、真実な父」。この方の子とされた私たちも父に似せられて、偽りではなく、真実を語る者に変えられ続けるよう祈りたい。人と交わる前に神と交わり、神から愛と真実をいただい

て人と交わる。心で憎み、表面だけ合わせる偽りを捨て、愛をもって祈りつつ真実に向き合い、愛と真実をもって語り合い、聞き合う。ヤコ1：19。そこには祈りと主からいただく聖なる勇気が必要である。主にあるお互いの関係で大切→エペソ4：25後半。主にあるお互いも皆、ものの見方、考え方、好みは違う事をまず認め合う。愛をもって真実を互いに語り合う関係（エペソ4：15）を育てて行く。初めからうまくいなくても。愛をもって語り合い、「意見」が違ってても互いの「人格」を尊敬し、愛し合うことができるのが、神が下さる愛→「愛は、寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし（おおい）、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることはありません」（Iコリ13：4～8）。父と子と聖霊なる神は、このような深く広い愛で私たちを愛し続けておられる、そしてこの愛で永遠に私たちを愛して下さる驚くべき恵みに思いを潜めたい。Ⅲ「それは、あなたがたが、さばきに会わないためです」。神は、私たちのことば、会話のすべてを聞いておられる。この事実を深く覚えて生活したい。「わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだな（無益な。うそ、偽り、陰口、悪口、噂話）ことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです」マタイ12：36。「私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きをすることになります」ローマ14：12。Ⅳ ことばの罪を犯さない人はいない。世の終わりのさばきを、ただ待つほかないのだろうか。いいえ→1. この地上で自分の罪に気づいた時、神に正直に罪を告白する（真実を語る）なら神は赦して下さる。「もし、罪（原語：単数形）はないと言う（罪の性質が示されても、「はい」を「いいえ」と言う）なら、私たちは自分を欺いており（本当の自分の姿から目をそらしている、自分を欺いて自分の虚像を作り上げている）真理（真実）は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪（複数形）を言い表す（具体的な罪を示される神に、正直に「はい、その通りです」と言い、認め、お詫びする）なら神は真実で正しい方（その対極の存在＝神に敵対し、私たちを偽りで惑わす悪魔は、偽りで悪い者）ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます（私たちを真実な主の姿にきよめ続けて下さる）」Iヨハ1：9。2. 同じ罪を繰り返さないように、次の御言葉を心に蓄え、心から祈りたい。「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください」詩141：3。「必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい」エペ4：29